「発達の段階一覧表」

低学年	中学年	高学年	中学校	高等学校
・教師や保護者など大人が決めることが正しいことであり，それに従うことが正しいことと判断する。 ・自分の損得が道徳判断になる。	・自分の損得が道徳判断になったり，身近な他人から「よい子」と評価されることに価値があると考えたりするようになる。	・自律的な態度が発達し，自分の行為を自分の判断で決定しようとすることに伴い，責任感が強くなり批判的な能力も備わってくる。	・自我に目覚め，自分の判断や意志で生きていこうとする自律への意欲が高まるとともに，人間としての生き方についての関心が高まってくる。	・自ら考え主体的に判断し行動することができるようになり，人間としての在り方生き方についての関心が高まってくる。
他律的な考え方	→	→	→	**自律的な考え方**
・自己中心性が残っている。 ・様々な人々と関わる中で，相手の考えや気持ちに気付くことができるようになる。	・人の考え方や感じ方が自分と同様であると思い込みがちになる。 ・相手の気持ちを察したり，より深く理解したりすることができるようになる。	・自他を客観的に捉えることができるようになる。 ・相手の置かれている状況を自分自身に置き換えて想像できるようになる。	・客観的事実と自意識の違いに悩むようになる。 ・社会通念としての規範や今までの自分の価値観を捉え直すことができるようになる。	・幅広い見方による普遍的な思考ができるようになる。
主観的な見方	→	→	→	**客観的な見方**
・具体的経験や結果に注目して考える。	・行動の動機に注目して考えることができるようになる。	・行為の結果とともに動機も十分に考慮できるようになる。	・行為の結果と動機どちらも踏まえて，深い思索ができるようになる。 ※場面や状況に応じて，「結果重視の考え方」「動機重視の考え方」のどちらの側面からも物事を捉えることができるようになる。	
結果重視の考え方	→	→	→	**動機重視の考え方**
・一つの事柄（道徳的価値など）を一面的に捉える。	・一つの事柄（道徳的価値など）に自分が捉えた側面だけでなく，他の面もあることを理解できるようになる。	・一つの事柄（道徳的価値など）について，多面的・多角的に考えることができるようになる。	・一つの事柄（道徳的価値など）について，様々な価値と関わらせながら，多面的・多角的に考えることができるようになる。	・人間としての在り方生き方について，様々な価値と関わらせながら，多面的・多角的に考えることができるようになる。
一面的な見方	→	→	→	**多面的な見方**
・一対一等身近な人との関わりで考える。	・活動範囲の広がりに伴って，集団や地域等の関わりで考えることができるようになる。	・より大きな集団や社会，自然等との関わりで考えることができるようになる。	・社会的組織全体の視点から，考えることができるようになる。	・国家社会の一員としての自覚に基づき，考えることができるようになる。
身近な人との関わり	→	→	→	**国家・社会との関わり**

「発達の段階一覧表」の見方

「発達の段階一覧表」の見方を教えてください。

「発達の段階一覧表」を使うと，どんなことに役立ちますか？

道徳教育は，児童生徒の心の成長に寄り添って，じっくりと道徳性を育てることが大切です。「発達の段階一覧表」は，**児童生徒の道徳性に関わる発達を目安として捉え，今後の発達を見据えながら**，道徳科の授業や道徳教育を行うためのものです。

1　指導する学年の児童生徒の道徳性の発達を客観的に捉える

二重線で囲んだ縦枠の部分を見てみましょう。この見方は，例えば，高学年の児童は**一般的にどのような道徳性が育っているかを確認する見方**です。

この見方で見ると，児童生徒の道徳性の発達を客観的に捉えることに役立ちそうです。

児童に身に付いていることや課題を理解するときに，教師の主観ではなく客観的に捉えることができると，**指導する学年段階の発達に応じた指導**ができます。

2　指導する児童生徒一人一人の道徳性の発達を系統的に捉える

点線で囲んだ横枠の部分を見てみましょう。この見方は，指導する児童生徒の**道徳性がどのように発達していくかを確認する見方**です。

この見方で見ると，児童生徒一人一人の道徳性の発達を系統的に捉えることに役立ちそうです。

「自分の損得で行動しがち」「自分の判断や意志で行動できる」等，一人一人の成長を捉えることができると，**個に応じた指導に生かす**ことができます。

「発達の段階一覧表」

低学年	中学年	高学年	中学校	高等学校
・教師や保護者など大人が決めることが正しいことであり，それに従うことが正しいことと判断する。 ・自分の損得が道徳判断になる。	・自分の損得が道徳判断になったり，身近な他人から「よい子」と評価されることに価値があると考えたりするようになる。	・自律的な態度が発達し，自分の行為を自分の判断で決定しようとすることに伴い，責任感が強くなり批判的な能力も備わってくる。	・自我に目覚め，自分の判断や意志で生きていこうとする自律への意欲が高まるとともに，人間としての生き方についての関心が高まってくる。	・自ら考え主体的に判断し行動することができるようになり，人間としての在り方生き方についての関心が高まってくる。
他律的な考え方				自律的な考え方
・自己中心性が残っている。 ・様々な人々と関わる中で，相手の考えや気持ちに気付くことができるようになる。	・人の考え方や感じ方が自分と同様であると思い込みがちになる。 ・相手の気持ちを察したり，より深く理解したりすることができるようになる。	・自他を客観的に捉えることができるようになる。 ・相手の置かれている状況を自分自身に置き換えて想像できるようになる。	・客観的事実と自意識の違いに悩むようになる。 ・社会通念としての規範や今までの自分の価値観を捉え直すことができるようになる。	・幅広い見方による普遍的な思考ができるようになる。
主観的な見方				客観的な見方
・具体的経験や結果に注目して考える。	・行動の動機に注目して考えることができるようになる。	・行為の結果とともに動機も十分に考慮できるようになる。	・行為の結果と動機どちらも踏まえて，深い思索ができるようになる。 ※場面や状況に応じて，「結果重視の考え方」「動機重視の考え方」のどちらの側面からも物事を捉えることができるようになる。	
結果重視の考え方				動機重視の考え方
・一つの事柄（道徳的価値など）を一面的に捉える。	・一つの事柄（道徳的価値など）に自分が捉えた側面だけでなく，他の面もあることを理解できるようになる。	・一つの事柄（道徳的価値など）について，多面的・多角的に考えることができるようになる。	・一つの事柄（道徳的価値など）について，様々な価値と関わらせながら，多面的・多角的に考えることができるようになる。	・人間としての在り方生き方について，様々な価値と関わらせながら，多面的・多角的に考えることができるようになる。
一面的な見方				多面的な見方
・一対一等身近な人との関わりで考える。	・活動範囲の広がりに伴って，集団や地域等の関わりで考えることができるようになる。	・より大きな集団や社会，自然等との関わりで考えることができるようになる。	・社会的組織全体の視点から，考えることができるようになる。	・国家社会の一員としての自覚に基づき，考えることができるようになる。
身近な人との関わり				国家・社会との関わり

「発達の段階一覧表」を見ることで，児童生徒の道徳性をじっくりと育てることの大切さが分かりました。この見方を，道徳科の授業や道徳教育にどのように生かすか更に詳しく知りたいです！